

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 内在性二本鎖 RNA 産生機構の解明およびがん免疫療法への応用

2. 研究代表者： 北嶋 俊輔（(公財)がん研究会 がん研究所 研究員）

3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、細胞質内二本鎖 (ds) RNA が発生する分子機構を解明し、認識経路を活性化する薬剤による新規がん免疫療法の開発を目的としている。

フェーズ1では、MPS1 (Monopolar Spindle 1) 阻害剤がSTING (Stimulator of interferon genes) 経路と抗腫瘍免疫経路を活性化すること、葉酸代謝阻害により免疫細胞遊走が抑制されることを明らかにした。dsRNA 経路依存的な抗腫瘍効果について論文投稿するなど、確実に成果を上げている。

フェーズ2では、メチオニン代謝－エピジェネティクスのクロストークを介した抗腫瘍免疫活性化機構の解明、及び内在性 dsRNA を産生する非コードゲノム領域の同定と機能解明を行う。がん細胞において機能抑制が見られない内在性 dsRNA 認識経路の活性化を標的として抗腫瘍免疫を活性化するアプローチは創薬としても興味深く、今後の展開を期待する。

以上